田代俊文先生

ー東先生との出会いについて教えてください。

田代：静岡県の三島市民文化会館での演奏会で私が指揮、東先生がソリストで、全曲プッチーニの公演を行った時です。
演目は『私のお父さん』『歌に生き、恋に生き』『ある晴れた日に』でした。

ー思い出の曲を教えてください。

田代：やはり、初めてご一緒した公演の曲目ですね。初めて会った時は「これが世界で活躍する東敦子か。」と思いました。
プッチーニの弟子が書いた『プッチーニが語る自作オペラの解釈と演奏法』という分厚い本を先生から直接渡され
「私は、この通りに演奏します。」と言われました。演奏は本当にその本に忠実なもので、驚いたことを覚えています。
先生がいる場所は緊張感があり、空気がピリッとしていましたね。

ー大学内ではどのような関わりがありましたか？

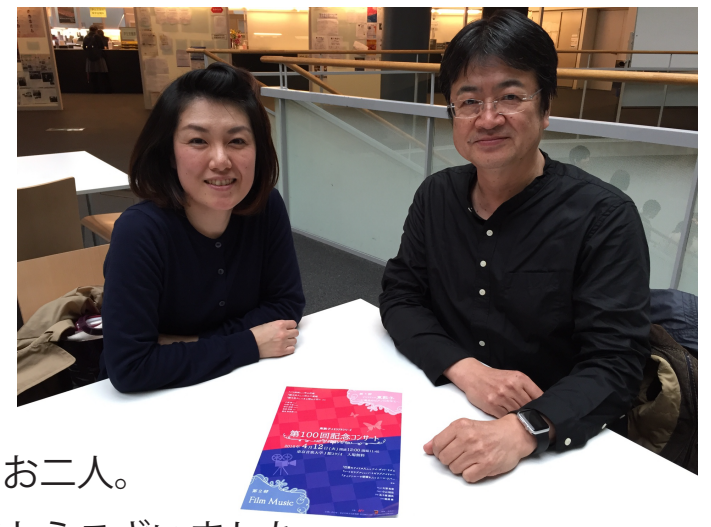
田代：私が修士オペラの指揮をしていた時に指導をされていたのが東先生でした。

ー他に東先生との思い出のエピソードはありますか？

田代：東先生は服装や立ち振る舞いにも厳しく、「レッスン時はジーパンはあり得ない」「靴はヒールを履く事が当たり前」。
思い出深いのは、私がリハーサルの時に鼻の頭を掻いていたら怒られたことですね。
「何をしているの？」と言われました。

―音楽だけでなく普段の所作から見ていらしたのですね。

田代：先生は語学も堪能で、最低 5 か国語 (日本語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、英語) は話されていました。
隙が全く無く、完璧な人、という印象です。



お話を伺ったお二人。
ご協力ありがとうございました。

指揮　田代 俊文（たしろ としふみ）

東京音楽大学指揮科卒業。指揮を三石精一、F.Eggerman に師事する。卒業と同時に二期会、藤原歌劇団等でオペラ指揮者としての経験を積み、幅広いオペラレパートリーを指揮。又、ミュージカルの分野においても、「レ・ミゼラブル」「シンデレラ」等、大作ミュージカルの上演に携わり、その劇的表現力を高く評価された。　2001 年より、グルッポ・ムジチーニ・オーケストラを組織し、「ラ・ボエーム」「椿姫」等のオペラを指揮、絶賛を博す。特に「モーツァルト・ツィクルス」では、全てのジャンルにおいて高水準の演奏を披露し、多大なる成果を収めた。2007 年には東京音楽大学 100 周年記念特別演奏会でベートーヴェンの第九を指揮し絶賛を博した。
現在、東京音楽大学指揮科准教授。